

210620八栗シオンキリスト教会礼拝宣教参考資料 ヨハネ1:19-34「ヨハネの役割」

19「ユダヤ人たちが、祭司たちとレビ人たちをエルサレムから遣わして」

・なぜ遣わしたのか？

→ユダヤ地方の全域、エルサレムの住民がみなバプテスマのヨハネのもとにやってきていたから。

マルコ 1:5 ユダヤ地方の全域とエルサレムの住民はみな、ヨハネのもとにやって来て、自分の罪を告白し、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。

・なぜ人々はヨハネのもとに集まったのか？

→ヨハネに対する期待があったからだろう。

〈ヨハネに対する期待〉

・人々には生活があった。町に住み、仕事があり、家族があった。

・しかし、ヨハネには一般人の生活はなかった。ヨハネは「ユダヤの荒野に住み」（マタイ3:1）、ラクダの毛の衣をまとい、腰には革の帯を締め、いなごと野蜜を食べる生活だった（マタイ3:4）。

・この生活は当時のユダヤ人からすれば、大変、ストイックな生活に見えたことだろう。

・バプテスマのヨハネは当時の一般的な人々のような「生活感」がなかった。

・彼の働きは人々に罪の告白と悔い改めを迫り、洗礼を授けることだった。しかし、ラビ（ユダヤ教の認定された教師）として資格を受けていたわけではない。

↓

ヨハネの生活や働きから、彼こそが神から遣わされた人（メシア）ではないかという期待をもつユダヤ人もいたことだろう。そのような期待をもってヨハネのもとに集まったのではないか。

21「あなたはエリヤですか」

・当時、律法学者たちはメシアが来る前に、まずエリヤ（預言者）が来るはずだと教えていた。イエスもその考えに立ち、まずエリヤが来て、すべてを立て直すと言われた。マラキ書にエリヤが来ることが預言されている。

マルコ 9:11 また弟子たちは、イエスに尋ねた。「なぜ、律法学者たちは、まずエリヤが来るはずだと言っているのですか。」

マルコ 9:12 イエスは彼らに言われた。「エリヤがまず来て、すべてを立て直すのです。それではどうして、人の子について、多くの苦しみを受け、蔑まれると書いてあるのですか。」

マラキ 4:5 見よ。わたしは、
主の大いなる恐るべき日が来る前に、
預言者エリヤをあなたがたに遣わす。

マラキ 4:6 彼は、父の心を子に向けさせ、
子の心をその父に向けさせる。
それは、わたしが来て、この地を聖絶の物として
打ち滅ぼすことのないようにするためである。」

・マラキ書では「主の大いなる恐るべき日が来る前に」エリヤが到来すると言われている。その日は神のさばきの日であり、メシアによってもたらされる神の救いの日でもある。その日の到来の前に、エリヤが遣わされて、ユダヤ人の心が父なる神に向けさせられる。

21 「あの預言者ですか」

・モーセはイスラエルの中から「モーセのような預言者」が後に起こされと語った。使徒の働きでもペテロがこの理解を示した。1世紀のユダヤ人の中にもこの理解が続いていた。

申命記 18:15 あなたの神、主はあなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のような一人の預言者をあなたのために起こされる。あなたがたはその人に聞き従わなければならない。

使徒 3:22 モーセはこう言いました。『あなたがたの神、主は、あなたがたの同胞の中から、私のような一人の預言者をあなたがたのために起こされる。彼があなたがたに告げることすべてに聞き従わなければならない。』

使徒 3:23 その預言者に聞き従わない者はだれでも、自分の民から断ち切られる。』

23 「主の道をまっすぐにせよ、と荒野で叫ぶ者の声」

・イザヤ40:3からの引用。

Is. 40:1 「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。
——あなたがたの神は仰せられる——

Is. 40:2 エルサレムに優しく語りかけよ。
これに呼びかけよ。
その苦役は終わり、その咎は償われている、と。
そのすべての罪に代えて、
二倍のものを主の手から受けている、と。」

Is. 40:3 荒野で叫ぶ者の声がする。
「主の道を用意せよ。
荒れ地で私たちの神のために、
大路をまっすぐにせよ。

Is. 40:4 すべての谷は引き上げられ、
すべての山や丘は低くなる。
曲がったところはまっすぐになり、
険しい地は平らになる。

Is. 40:5 このようにして主の栄光が現されると、
すべての肉なる者がともにこれを見る。
まことに主の御口が語られる。」

- ・ヨハネはイザヤ書における「荒野で叫ぶ者の声」だと言っている。
- ・「荒野で叫ぶ者」だとは言っていない。
- ・ヨハネは叫ぶ者ではなく、叫び出された「声」である。
- ・声は声を発する者がいて初めて成立する。
- ・同様に、ヨハネの背後にはヨハネを遣わす神がいて、初めてヨハネの存在は成立する。

	引用元（イザヤ書）の意味	引用先（ヨハネ）の意味
「その苦役は終り、その咎は…」	バビロン捕囚からの解放	イエス・キリストによる救い
「主の道を用意せよ…」	バビロン捕囚からの解放にあたって、民に主に立ち返るように迫る	イエス・キリストの救いに先立ち、民に主に立ち返るように迫る →ヨハネの役割

28 「私は水でバプテスマを受けています」

- ・神がバプテスマのヨハネに与えられた任務（33節）。

29 「世の罪を取り除く神の子羊」

- ・ユダヤ人であれば、過ぎ越しの祭の「子羊」を思い浮かべたことだろう。
- ・「世の罪を取り除く」と言われているので、ここにはイザヤ53章の人々の「背きと咎のために献げられた沈黙の羊」が思い出される。

33 「その人こそ、聖霊によってバプテスマを授ける者」

水でバプテスマをバプテスマを授ける	聖霊によってバプテスマを授ける
主の御前に悔い改めたこととしるし（証）としてのバプテスマ	イエスを主と受け入れた者に聖霊が与えられる
きよめの限界	主のみこころを教え、主のきよさへと導く

34 「私はそれを見ました」

- ・バプテスマのヨハネは、御霊が下り留まる方こそが聖霊によってバプテスマを授ける方であると、彼を遣わした方（神）から聞いていた（33節）。
- ・ヨハネはイエスの上に御霊が下り留まるのを見たので、イエスこそが聖霊によってバプテスマを授け、神の子であると確信し、証をしている。

【ヨハネとイエスの比較】

- ・ヨハネの後に来る方がイスラエルに救いをもたらすメシアであり、彼はその方が来るための準備をするために遣わされた。
- ・イエスは聖霊によってバプテスマを授け、ヨハネは水によってバプテスマを授ける。
- ・イエスはヨハネとは比べることができない比類なき存在。